

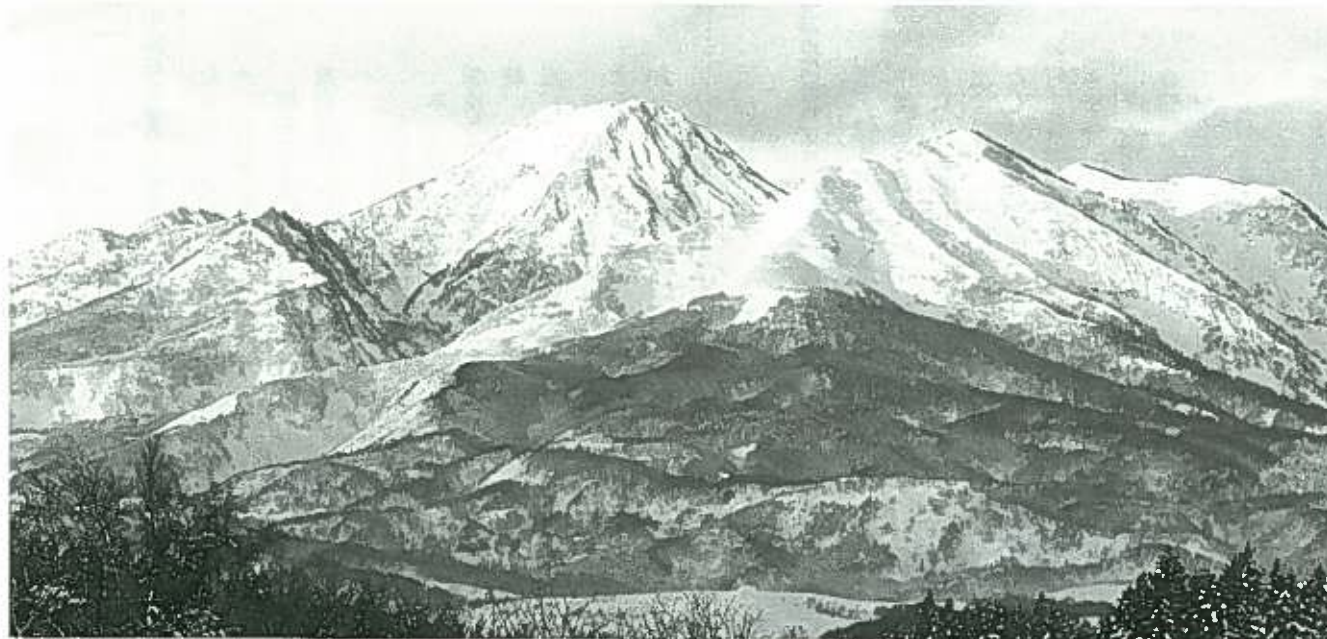
公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



4.5 **特集** 拉致問題を人権学習のなかで捉える 第27回全国公民館研究集会
第5分科会発表2より

- 2 **トピックス** 連続快挙!! 第57回優良公民館表彰 本年も下越地区から2館受賞す
- 3 **視点** 中越地震～自然の中に生きていることを再認識～
- 3 **ひろば** 合併に向けて活動の点検～結束の力で頑張る～
- 6 **実践記録シリーズ** そのきこどもマンガ道場～めざせ! 漫画家～
- 7 **サークル交流** 上越PCサポーターズ (上越市公民館) / 英会話教室 (神林村公民館)
- 7 **素顔拝見** 酒井俊明さん (坂尾市) / 川端 豊さん (新潟市関屋地区)



「妙高山の自然に囲まれて雪を楽しむ」
中郷村

連続快挙!! 第57回優良公民館表彰 本年も下越地区から2館受賞す

「この喜び、分かち合いたい」

小須戸町中央公民館長 佐藤 貞夫

中越地震の余震が強く続くなか「こういう時だからこそ大臣から表彰状をいただいで、町民に元気を



出してもらおう」と、町長の激励を受けて、十月二十八日、式前日の早朝、郡山回りで上京した。この受賞は、県公連および県の行政機関の指導をいただきながら、長い歴史と伝統を築いてきた実績が認められたもので、重く大きな受賞であると受け止め、町民みなでこの喜びを分かち合いたい。

たものは、次の三事業であった。
一、小須戸公民館報の発行
昭和二十四年十月から六百号継続発行、これからも継続したい。
二、県立新津高等学校開放講座
本年度第二十一回、開かれた学校と生涯学習の講座として継続。
三、祖父母と孫の学級
まごころの町づくり宣言を受けて、明るい家庭づくり学級である。



祖父母と孫のぶどう狩り

この受賞を町民の誇りとし、益々公連審と共に、燃える公民館関係職員は一丸となつて、小須戸町から新潟市へ力強く新たな一歩を踏み出そうとしている。

優良公民館表彰を励みに

新潟市関屋地区公民館長 佐野 憲昭

新潟県内での今年の優良公民館文部科学大臣表彰は、当公民館と小須戸町中央公民館が受けることになりま



した。

来年3月には、新潟市は今回一緒に受賞した小須戸町を含む13の市町村と合併します。合併前の最後の年、編入する側の公民館から1館、編入される側の公民館からも1館が同時に表彰されたことは非常に象徴的な出来事だと思います。

今、公民館は市町村合併を機に大きな転換期、危機の時代を迎えています。

特に新潟県は、新潟県中越地

震という大きな天災に遭遇し、中越地方の多くの市町村は大きな負の遺産を抱えることになりました。その意味で、行政も、職員も、最低限に抑えないと市町村運営が出来ないところが出てきます。

その中であつて公民館は、存在意義を地域住民に示し、そして認められることにより存在そのものを確保しなければなりません。このような時代だからこそ、公民館が必要とされています。



関屋楽 現地演習

その意味で、比較的被害の少なかった小須戸町と私たち新潟市の公民館が優良公民館表彰を受けたことは、大きな喜びと共



中山文部科学大臣 あいさつ

にこの危機の時代、地域のために、地域住民のために、他の公民館の模範となつて欲しいという激励をちようだいしたものと考えております。
当館は、今年創立15周年を迎えるという、まだまだ新米の公民館ではありますが、今回表彰を受けたことを機に更に努力していきたいと思ひます。

最後に、新潟県生涯学習推進課、下越教育事務所の皆様をはじめ、表彰を授与されることにご尽力くださいました関係者の皆様、心から厚く御礼申し上げます。

視点

中越地震

～自然の中に生きていることを再認識～

前 広神村公民館長 松田 光正



十月二十三日、午後五時五十六分。それは、突然に、そして、あまりにも大きかった。『何だ、来た、自分達のものにも来た、でかい...』

停電。火を消す。『もう一回くるぞ!』

2回目の揺れ。どうすることもできず、自分の身を守るのが精一杯。周囲から物が落ちるのを見ながら、揺れのおさまるのを待つ。一面、足の踏み場もない。電燈を見つけ、家族の無事を確認……。

経験したことのない大地震であった。後日、家屋の倒壊

した激震地の人の話では、天井に頭をぶつける程飛び上がったと言う。

大自然のエネルギーの大きさを思い知り、自分達の所には、こんな大地震は来ないと思っていたことを省みて、いつ、どこで、何が起るか分からないこと、自然の中に生きていることを改めて認識した。

災害のないことのありがたさ、健康のありがたさを感じないではいられません。未だ、余震のおさまらない中、地震に負けず、一日も早い復興を願っております。

HOT NEWS 掲示板

平成16年度 第3回「月刊公民館」編集委員会開催

1. 日時 平成16年11月12日 (金) 午後2時～5時
2. 場所 全国公民館連合会 会議室
3. 協議事項
 - ・4月号以降の特集 テーマ、執筆者の選定等
 - ・第3回編集委員会日時の決定
 - ・その他

※発行方法、送料等について
 昨年度に大きく変更したので、今年はコーナーの認知度を定着させるため、あまり大きな変更がなくてもよい。細々とした点で、また変更した方がよい。

各コーナーと、その趣旨、執筆者、ページ数

コーナー名	内 容	執筆者	ページ数
特集テーマ	公民館をめぐる課題をとりあげる	編集部	
実践事例	テーマに関する先進的実践事例	公民館関係者	4
論考	テーマの課題を考察する論文	主として研究者	4～5
参考文献	テーマに関する参考文献	社会教育実践研究センター加藤さん	1
参考データ	テーマの課題性を裏付けるデータ	全公連事務局	1～3

【特集以外のコーナー】

とびら	各界の第一人者のメッセージ		1
地域に開かれた公民館 (文部科学省優良公民館)	文部科学省優良公民館に選ばれた公民館の事例紹介	公民館関係者	4
私のまちの公民館	先進的な活動、ユニークな活動などの事例紹介	公民館関係者	4
市町村長に聞く	公民館活動が積極的な市町村長にインタビューする	市町村長	4～6
公民館のホームページの紹介	公民館のホームページの紹介	再検討	2
「こんにちは」に心をこめて	エッセイ	村松真貴子さん もう2人増員	1
ことばと出会う	エッセイ	藤井 均さん	2
ロビー	公民館にかかわるトピックやコラムなど	公民館関係者	1
通信員からの地域の便り	通信員の方々から各地の事情を伝えてもらいます	通信員	1～2
全公連ニュース		全公連事務局	2
読者のひろば	読者の方々からの声を集めます		1～2
行政だより		文部科学省	1
町から村から		全公連事務局	2～3
資料紹介、受贈資料リスト		全公連事務局	2

【休刊中のコーナー】

公民館Q & A	公民館に関する疑問に答える	全公連事務局等	2
----------	---------------	---------	---

ひろば

合併に向けて活動の点検

～結束の力で頑張る～

村松町公民館運営審議会委員長 金山 昭英

村松は、春の桜、秋の美しい紅葉と霊峰白山の麓に位置する町で、旧三万石の城下町である。私たちは目下、五泉市と合併を目前にして行政全般について点検、見直しに入っている状況である。合併後の公民館活動をどのように進めるかについて、まだ話し合っていないが、今まで培ってきた村松の良い点は大いに生かしたいと思う。

例えば、高齢者を対象にしている「寿大学」などは、既に自らの手で、年間の活動計画の立案をし、自立の方向で力強い活動をしている。希望と団結を合言葉に

元気一杯の姿である。又、小・中学生たちが公民館へ足を運び、一時は、絶望視していた形が、近年は急速に増加している。

公民館活動の原点にもどって、新しい合併後の姿が、町民一人一人に喜ばれ、参加してよかったという活動になるよう、村松の生涯学習課のスタッフ一同頑張っている昨今である。



なかで捉える 第27回全国公民館研究集会 第5分科会発表2より

TV、新聞等で大きく取り上げられていた昨年9月頃、高齢者大学の学生の中から「拉致問題を高齢者大学の人権学習で取り組めないか」との提案があり、慎重に検討をすすめていきました。

「人権」とは、「人間が人間らしく生きるために生来持っている権利であり、誰からも奪われるものでない」と言われます。「拉致」は、その人の意志に関係なく無理やりに連れていく行為であり、自由を奪い、人としての権利を奪う人格を無視した絶対許されない行為であります。

このことから、「拉致問題は、人権侵害の卑劣な行為であり、人権問題そのものである」と捉え、運営委員会に提起するなかで大きな盛り上がりとなり、人権学習として取り組むことといたしました。

3 運営委員会への提起と実現に向けた調整

(1) 高齢者大学運営委員会への提起

平成15年10月の運営委員会で、「拉致問題」を人権学習として実施することを提起する。全員一致で取り組むことを確認し準備を進める。

11月にも運営委員会を招集し、開催当日の役割分担等を決める。

(2) ブルーリボンの会との調整

講師の調整について、加古川市内にあるブルーリボンの会に講師との仲介をお願いし、講演の快諾を得る。

(3) 登録団体協議会等への参加働きかけ

登録団体協議会及び公民館主催事業受講生へ参加働きかけを広げる。

協議会からは、参加協力と取組について協力したい旨の回答がある。

4 実現に向けた気運の高まりと取組

(1) 高齢者大学の取組

自分たちに何が支援できるか、運営委員会で協議し、署名活動、カンパ、当日のブルーリボン着用の実施を決める。ただし、いずれも各自の自主

性を尊重することを確認する。署名用紙は、「拉致被害者を救出しよう」の内容で独自に作成し、ブルーリボンも手作りで作製する。さらに、講師の承諾を得て、運営委員が学習会の記録ビデオを作る。

(2) 参加者の広がり

人権学習会の取組が日刊紙に掲載されたことにより、公民館に留まらず市民へと啓発が広がり、参加希望の問い合わせが相次ぐ。

Ⅲ 評価と成果

今回の人権学習会を機に、拉致問題は人権問題であるという認識が、公民館講座生、利用者のなかで高まるとともに、政治への関心も強まり、拉致問題が他人ごとでなく、より身近な問題としてとらえることができたのではないかと考えます。そして、公民館に集う人々のなかに支援の輪が広がり、人権に対する問題意識もさらに高まりつつあります。

また、運営委員会の取組で、運営委員会として行動すべき方針が、委員の討議によって決定され、行動できたことも評価でき、今後更に一歩進めて、運営面に留まらず企画面への参画を含め、運営委員会に提起できるのではないかと考えています。

Ⅳ 今後の課題

現在、私どもの公民館では、人権学習会は指導、被指導の関係で学ぶ研修会の方法が多くとられておりますが、ワークショップ(参加体験型学習の手法)を取り入れて、意見交換や共同作業を行いながら進める研修ができればと考えます。他の講座(子育て等)ではこの手法を取り入れています。人権学習会にも活用すれば“気づき”“学び合い”“ふりかえり”ができ、大変有効な方法だと思います。

特集

拉致問題を人権学習の

兵庫県 加古川市立陵南公民館

館長 北山 和夫

I はじめに

加古川市は、兵庫県の臨海部の中ほどに位置し、1級河川「加古川」の水の恵みを受けて発展してきた人口26万6千人の町ですが、本市の公民館設置状況は中学校区単位に11公民館あり、私どもの陵南公民館は、その11番目の公民館として昨年4月に開設されたところです。

加古川市の公民館は、教育基本方針「こころ豊かに自ら学び続ける人づくり」に基づき、すべての市民が、いつでも学ぶことのできる、開かれた生涯学習の場としての公民館を目指しております。とりわけ人権課題においては、「人権文化」の創造に向けた人権教育、啓発に積極的に取り組み、市民と協働しながら差別解消に向けて事業を進めています。勿論、いずれの公民館も各事業のなかに、同和問題、女性問題、障害者問題などの人権課題を取り入れておりますが、公民館側からの学習提供だけでなく、サークル活動の集合体である「登録団体協議会」も独自に人権研修を実施しています。

このような中、見出しの課題について発表させていただきますのは、昨年11月に陵南公民館において拉致被害者家族会の有本嘉代子さんをお迎えして、「拉致問題」を人権問題として捉え学習会を実施したことによります。

以下に、その取組について報告いたします。

II 活動の内容

1 高齢者大学「人権学習会」の取組

- ◎ 実施日：平成15年11月21日(金)
- ◎ 学習テーマ：「人権学習 拉致被害者家族の願い」
- ◎ 講師：有本嘉代子氏（拉致被害者 有本恵子

さんの母)

- ◎ ビデオ：「命を奪うな、自由を返せ。拉致事件から人権問題を考える。」

拉致被害者家族会の有本嘉代子さんをお迎えしての学習会には、高齢者大学90人、登録団体からは80人、さらに一般参加者を含めて約250人の参加があり、定員200人の会場が溢れ、入りきれないほどでしたが、有本嘉代子さんの思い、願いが参加者一人ひとりの心に伝わり、会場が一体となった学習会になりました。

最初に、ビデオによる拉致被害者家族の現在までの取組、経緯の放映があり、平成14年10月に拉致被害者5人の方が飛行機で帰国された場面では、参加者の誰もが胸が熱くなり、涙されていた方もたくさんおられました。講演では、「恵子さん」が行方不明になった時期、その後、最後の手紙が来た経緯などの話がありました。また、一日でも早い救出のため、家族会の方々が必死の思いで、毎日のように全国の集会や講演会に出席し、支援をお願いされている話もあり、熱意が伝わって参りました。有本さんの願いは、「全面解決するまで、国民の皆さんには拉致被害者のことをいつまでも忘れずに応援してほしい」との切実なものであったと思います。

学習会終了後、参加者の方々からは、「お話を聞いて胸がいっぱいになった。拉致被害者の方が全員一日でも早く帰国されるよう、願っています。」との共感の声をたくさんいただきました。

講師への謝辞の後、高齢者大学の運営委員会が取り組みを進めた参加者全員の「救出署名」に、「私たち全員、応援しています。がんばってください。」の言葉も添えて、運営委員長からお渡ししました。

2 拉致問題を人権学習に取り上げた理由

平成14年10月に、拉致被害者5人の方が帰国され、その後もさらに救出支援の運動が活発化し、毎日、

実践記録

81

シリーズ

そのきこどもマンガ道場 ～めざせ！漫画家～

新潟市曾野木地区公民館
主事 小島 真紀子

作・こどもマンガ道場生



1. はじめに

新潟市曾野木地区公民館では、平成7年度より、第2・4土曜日を休みとする学校週5日制の実施にともない、子どもたちの学校外での活動の場の提供と豊かな人間性を養うために、学校週5日制対応事業として、「こどもマンガ道場」を開設しました。

また、平成14年度からは、学校完全週5日制により、実施回数を増やし、さらに、平成15年度からは、初心者と経験者の2クラスを開設し、それぞれに担当講師を配置しました。

毎年、多くの子どもたちから申し込みがあり、子どもたちのマンガに対する関心の高さがうかがえます。



入門オリエンテーション案内

2. こどもマンガ道場のクラス内容

こどもマンガ道場には、曾野木地区だけではなく市内全域から、多くの子どもたちが通っています。



キャラクターについて、みんなでききる

マンガを読むのは、もちろん大好きで、ストーリーの展開を覚えるほど読み込んでいる子どももいて、驚かされます。

初心者クラスでは、人物や動物の描きかたの学習から始まり、1コママンガやイラストの作成にチャレンジします。最後には、2ページの短いストーリーマンガを描きます。

経験者クラスでは、初心者クラスを終了した子ど



平成7年度～15年度までの作品集

もたちを中心に、1年間をかけて、ストーリーマンガの作成に取り組みます。主人公となるキャラクターづくりからはじめ、ストーリーをきめてネームを作成し、原稿用紙に書きあげます。

年度末に向けて、2クラス分のストーリーマンガをまとめ、作品集として発行します。内容は、イラストや4コママンガ、ストーリーマンガがあり、盛りだくさんですが、子どもたちが作り出すストーリーには、楽しい発想や展開があり、おもしろいです。道場の最終日、子どもたちに作品集を手渡すとき、子どもたちの日はキラキラしています。手にした作品集を読んで、「来年は、ギャグマンガを描いてみたい!」「○○さんのマンガがおもしろい」など様々な感想がとびかいます。今年は、10年目の節目を迎えていますので、記念になるような作品集にしようと企画中です。どんな作品集ができあがるか、私も楽しみです。



ペンがきが一番大変?!

3. おわりに

マンガは、自分の空想の世界を表現する方法のひとつであると考えます。その子どもたちの自由な発想や創造力を大事にし、マンガとして形にしていくことの楽しさを感じられればよいと思います。また、マンガを描くことを通して、自分が好きなことを追求する姿勢や、最後まで作品を描きあげることの大切さを学んでくれることも願っています。

最後に、新潟市は、多くの漫画家を輩出していることでも有名ですので、今後、未来の漫画家として活躍することも期待しています。

※ネームとは…マンガを原稿用紙に描くまへの設計図

少子でもお役に立ちます

上越PCサポーターズ

上越PCサポーターズは、上越市公民館が平成16年度に主催された「パソコンサポーター育成講座」を受講した者によって、パソコン初級者を対象にサポーターボランティアを行う活動を主に結成されたグループで、会員は男女合わせて22名となっています。

現在公民館が主催する講座のサポートを行い活動中です。更に会員のレベルアップを目指し、公民館高田地区館で毎週木曜日に例会を開催し、勉強会を行ったりしております。勉強をすればするほど、「パソコンは奥が深い」と痛感させられているところですが、環境がこれだけIT化して



くるにつれ、もつと会の活動の場も広がると思っていますし、直近に控えている市町村合併で、活動がどのようにしていけば良いのか話題にしております。会の情報発信源としてホームページを立ち上げたり(ちよつと管理が大変)、連絡手段はメールだったり、やはりパソコン好きの仲間ならではの特殊性もあり、機会があったらインターネットで会のホームページを見てやって



ください。
http://www.tuplha.or.jp/PCSS
上越PCサポーターズ
代表 小嶋 修 記

英語イングリッシュ
英会話教室

私たちは、毎週月曜日に集



まり、楽しみながら英会話を学んでいます。教室の講師は、村の英語指導助手サイラジャさん(イギリス)です。

教室の内容は、特にテキスト等は使用せず、季節ごとの行事、出来事などを話題に、会話中心のフリースタイルで進められています。

これにより、講師とも円滑なコミュニケーションが図られ、教室が終了する午後八時半以降には、生徒が講師を食事として活躍することもあり、海外旅行や外国人の方との交流がより身近になっている今日このごろ。あなたも生の英語にふれ、楽しく国際交流してみませんか。

神林村 英会話教室
佐藤 貞和 記



“ぬし”になりつつあった建設課から生涯学習課に異動してきて2年目ですが、すでにベテラン組の酒井さん。その才能は多方面に発揮され、カメラを持てば某コンテストで入賞経験を持つ腕前、サクソフオンを持てばさらっと1曲ミニライブ、パソコンがあればあつという間にグラフィックデザイナーと感心させられっぱなしです。時々、職業選択を誤ったのでは。と思うくらい…



栃尾市生涯学習課・公民館
主事 酒井俊明さん

仕事も八面六臂の大活躍で、各種講座やイベントの企画運営に加え、文化財事業を一手に担い、多忙な毎日を送っています。

そんな酒井さんは、市内の遺跡から出土した河童型土偶と頼りない後輩(私です)を、誰よりもかわいがってくれる、優しいお兄さんです。

(栃尾市生涯学習課・公民館 馬場 紘子 記)

素顔
拝見

「川端さんいます？」日に何度も聞かれるこの言葉、事務室に寄る利用者の第一声で一番多いのがこれです。理由はひとつ、川端主任のお人柄。人の話をよく聞いてくれて話を引き出してくれる、本当に聞き上手で、利用者も職員も癒されている毎日です。

川端主任は、今春20年ぶりに公民館勤務となりました。以前の勤務地では「さいの神行事」復活のため奔走し、その甲斐あって今でも地域で大切に守り受け継がれているそうです。



新潟市関屋地区公民館
主任 川端 豊さん

現在は小学生から高齢者まで守備範囲広く事業を担当しています。夏休みの中高校生向けイベントでは苦手な風船を克服しアートバルーンを作り、ふるさと関屋楽では散策で地域を何周もまわりました。また、大学生のボランティアスタッフからは兄貴(?)のように慕われ、彼らもまた「川端さんいます？」のひとりです。

(新潟市関屋地区公民館 近 昭子 記)

県北の地から「文芸さんぼく」第二十号が恵送されて参りました。

内容は、発刊に寄せて、特集「戦争時代の思い出」、俳句、随筆第一部、短歌、詩、川柳、随筆第二部、応募者一覽等から(二〇二頁にわたり)構成されており。

今回は特別企画として、「戦争にまつわる思い出」とい



うジャンルを設定し、記録を残すことになったと、大滝平正町長さんは、「発刊にあたって」で述べておられます。

また、山北、朝日地域における漆と蠟について、本間陽一教育長さんが「高齢者大学」での講義内容から引用して記述されており。

応募者一覽を見ますと、広く町外、県外の方のお名前が見受けられます。

市町村合併が進む中、次号は果たして刊行されるでしょうか。

恵贈資料紹介

文芸さんぼく第20号

山北町教育委員会

Network ネットワーク

第27回全国公民館研究集会アピール

いま、全国各地で、行財政改革や市町村合併が進められている中、公民館は、統廃合、職員削減、貸館施設化等の問題で、大きな岐路に立たされています。

このような厳しい状況の中で、社会教育の中核施設である公民館の果たす役割や機能が低下することは、地域の教育力の向上や明るく活力ある地域社会を再構築する時代の流れに逆行することにつながります。

そこで、一堂に会した私たちは、新しい生涯学習社会の形成や明るく住みよい地域づくりをさらに推進するため、私たち一人一人が今後一層公民館の振興や充実に努力することを誓い合うとともに、大会参加者の総意をもって、下記の事項についてアピールいたします。

記

- 1 公民館関係職員は、発想の転換を図り地域に機能し、貢献できる公民館経営に取り組む。
 - (1) 公民館の設置及び運営に関する基準」の趣旨を踏まえ、自らの職責を強く自覚し、地域課題の解決や改善を的確に把握した講座・事業の企画・立案・実施に努める。
 - (2) 施設、設備、資料等を整え、情報の提供や各種の相談に前向きに応じると共に、青少年や高齢者の居場所づくり等に取り組む。
 - (3) 市町村合併が行われても、地域住民にとって公民館は必要な施設であり、市民の自立や公共を大切にする公民意識の高揚を図るための各種事業に取り組む、また自ら研修や研鑽に努力する。
- 2 都道府県公民館連合会関係者の英知を結集し、積極的な活動を展開する。
 - (1) 各都道府県公連にあっては、自らの財政についての現状と課題を的確に把握し、自立型財政確立の方向を検討すると共に積極的な取り組みに努める。
 - (2) 市町村合併が大きな課題となっている状況にあって、市長会、町村会、公民館振興市町村長連盟と密接な連携を図りながら、市町村公民館の存続や振興に努める。
 - (3) 公民館職員の力量を高めるための各種手引等の発行や研修及び研究集会の開催等の諸事業に取り組むと共に、公共の福祉実現に取り組む専門職員の配置に努力する。
- 3 全国公民館連合会は、明日の公民館の活路を拓く活動を展開する。
 - (1) 21世紀の公民館活動のあるべき姿について、調査・研究すると共に公民館活動の成果を共有するために迅速な情報提供に努める。
 - (2) 都道府県公連の自立型財政確立のための支援・助成に努める。
 - (3) 同並びに都道府県や関係機関と密接な連携を図り、新しい公共の在り方をめざす公民館活動振興のための諸事業に積極的に取り組む。

平成16年10月15日 第27回全国公民館研究集会

event information

平成17年1月の催ご案内

新春工作フェア

1月9日(日) 10:00~16:00受付(途中休止12:00~13:00)

1月10日(月・祝) 9:30~16:00 (" ")

(内容) 不思議な物体「スライム」など科学館で行っている工作メニューを約10種類ほど用意し、その中から自分の好きな工作を選んで作れます。

入館料のほかに、材料費として1工作につき100円が必要です。

今年の工作フェアはここが違います!

◆小・中学生に限り、お1人1回、無料で工作に参加できます(1人につき1枚、工作引換券を無料で差し上げます)。
*文部科学省の地域子ども教室推進事業の補助を受けています。

☆プラネタリウム冬番組★12月4日(土)~2月27日(日)

「ホワットくんと探るピラミッドの謎~隠☆さ★星☆の★秘☆密~」

(内容) 冬の晴れた日、図書館で一緒になった星哉(セイヤ)と小夜子(サヨコ)は、「ピラミッドの謎」という本の話題で持ちきり。というのも、ギザの三大ピラミッドが王様の墓として使われていた訳ではないらしいと知り、ピラミッドが建てられた目的に興味をもったからでした。その帰り道、突然、空から科学館のマスコットキャラクター「ホワットくん」が現れ、4千5百年前のエジプトのピラミッドに連れて行くと約束しました。そしてエジプトに向かった二人は、ピラミッドに隠された星の秘密を知ることになるのですが、さて、その秘密とは…

もちろん、オリオン座、おおひぬ座、冬の三角形など冬の星座や美しい星空も紹介します。

お問い合わせ先

電話 (025) 283-3331 FAX (025) 283-3336
ホームページ <http://www.lalanel.gr.jp/nsm/index.html>
新潟県立自然科学館

七 月の洪水、十月末の地震、中越地区を中心とした災害は、県公連の諸事業にも大きな影を落とすことになりました。このような中、16年度全国優良公民館表彰に、小須戸町中央公民館と新潟市関屋地区公民館

の二館が受賞の栄に浴したことは、私どもに大きな元気を与えてくれました。心から敬意を表したく思います。降雪期を迎える被災地の皆さんには、大変な毎日かと拝察いたします。年の暮れ、くれぐれもご健康の保持に留意され、良い年をお迎

表紙解説 「妙高山の自然に囲まれて雪を楽しむ」 「妙高山」と「ミニカマクラ」を組み写真に (中郷村公民館 藤井清比古)

発行所 新潟県公民館連合会 発行人/会長 佐藤信幸 編集人/事務局長 鈴木友夫 Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 TEL・FAX (025) 224-6073

印刷 第一印刷所 〒950-8724 新潟市和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 年共1,800円】